

## eポートフォリオを利用してピアレビューを行う授業実践と評価

### Practice and assessment of the peer-review using an e-portfolio system

山川 修<sup>\*1</sup>

Osamu Yamakawa<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>福井県立大学学術教養センター

<sup>\*1</sup>Center for Arts and Sciences, Fukui Prefectural University

Email: yamakawa@fpu.ac.jp

あらまし：グループワークを多用したゼミ形式の授業と、DTP（Desk Top Publishing）をテーマとしたコンピュータ演習形式の授業で、eポートフォリオを利用したピアレビューを実施した。ピアレビューに対する学生の感想は、ゼミ形式ではアウトプットが文章ということもあり分析的であり、演習形式ではアウトプットが画像という点もあり比較的感情的なものが多く、違いが出た。しかし、ピアレビューに対する評価が高い点では一致しており、授業の形式に限らず、ピアレビューが有効であるということが確認された。

キーワード：eポートフォリオ、ピアレビュー、フィードバック、評価

#### 1. はじめに

平成 20 年度より開始された戦略的大学連携支援事業により福井県内の 6 つの高等教育機関は大学連携連携プロジェクト（Fレックス）を開始した<sup>(1)</sup>。Fレックスでは平成 21 年度より LMS（Learning Management System：Moodle）、SNS（Social Networking Service：OpenSNP）、eポートフォリオ（Mahara）を授業や課外の学習を支援するシステムとして提供している<sup>(2)(3)</sup>。筆者は以前から授業で LMS を利用していたが、eポートフォリオ（以降、ePF と略す）は平成 21 年度より Fレックスで提供されたことを機に利用を開始し、ePF を使った効果的な授業設計に関して試行錯誤を行ってきた。平成 23 年度前期に、初年次教育として開講されている導入ゼミ（受講者 15 人）において、ePF を利用してピアレビューを行ったところ、学生の評価が高かった。そこで、平成 23 年度後期に開講している DTP の演習（受講者 29 人）においても課題提出を ePF 上で行い、課題のピアレビューを行った。本論文では目的や形態が違う 2 つの授業において、eポートフォリオを利用してピアレビューを行った実践を、学生のアンケートを元に分析し、ピアレビューの効果について考える。

#### 2. 実践と評価

##### 2.1 初年次教育少人数ゼミ

ePF を利用したピアレビューの実践の 1 例目は、初年次教育少人数ゼミ（導入ゼミ）である。導入ゼミは、1 年次前期の必修科目で、1 クラスは 15 人までに制限されている。ゼミのテーマは各教員が決めるが、初年次に身につけておくべき、調査、分析、発表等の要素を入れることが推奨されている。筆者は「テレビを読もう」というテーマでテレビ CM を題材に、メディアリテラシーを身につけることを目的としたゼミを行っている。

本ゼミのサイクルを図 1 に示す。本ゼミでは毎回

課題が出され、授業時間中には、その課題を題材にグループワーク（GW）を行う。グループは 3 人を 1 グループとし、5 グループ形成した。学生は毎回の GW で学んだことを ePF 上のブログ（日記）に記述する。また、4 回程度授業を実施したら、それまでの授業で何を学んだかを振り返るため、レポート形式の中間報告を提出する。ブログや中間報告はゼミのメンバー間では相互参照可能とし、中間報告を作成した後は、グループ内でお互いの報告を読み、フィードバック（ピアレビュー）を ePF 上で行った。

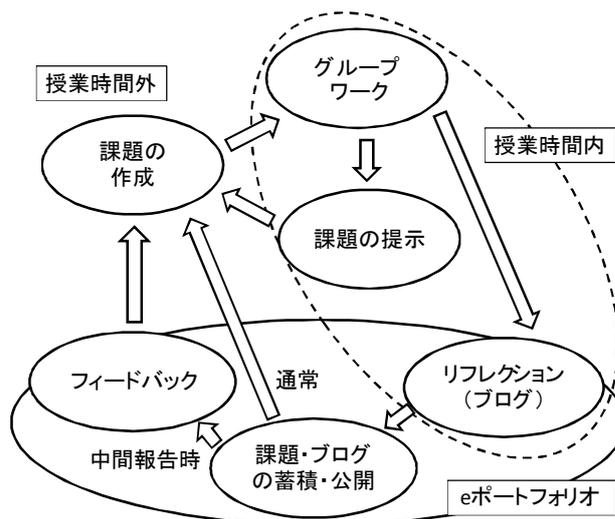


図 1 導入ゼミのサイクル

図 1 で、点線で囲った部分が、授業時間内で実施した項目であり、実線で囲った部分は、ePF 上で実施した項目である。

導入ゼミの授業評価アンケートで、(1) 毎回のブログの記入、(2) 中間報告、(3) フィードバック（ピアレビュー）が、自分の学習に役に立ったかどうかを聞いた結果を図 2 に示す。

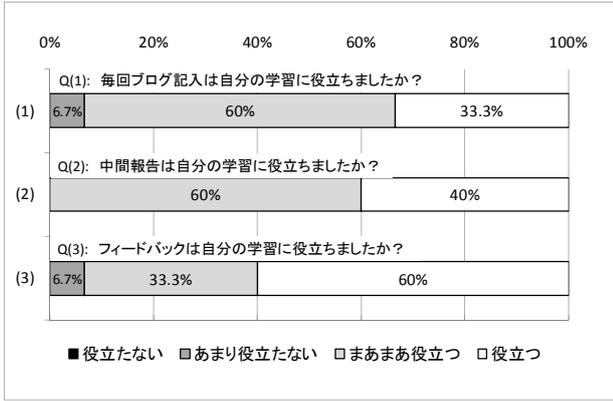


図2 導入ゼミの授業評価アンケート結果

3つの項目とも、「まあまあ役立つ」と「役立つ」で90%を越えているが、特にフィードバックは「役立つ」だけで60%と評価が高い。フィードバックに対する自由記述には、「自分がまとめた方法や考えについて人からの意見が客観的に知ることができた」や「フィードバックを行うことで他人の考えを知り、それを自分と比べたりすることでさらに自分の考えを深めていけたのでよかったです」といったように、分析的に評価しているケースが多かった。

## 2.2 DTP (Desk Top Publishing) 演習

ePF を利用したピアレビューの実践の2例目は、DTP 演習(情報処理E)である。この演習は Photoshop と Illustrator の演習を通じて、画像のレタッチや、ベクトル画像の作成スキルを身につけることが目的である。平成23年度のクラスは受講者が29人であり、前述の導入ゼミと比べると若干人数が多く、また、授業形式も通常の形式であり、グループワークは行っていない。図3にDTP演習のサイクルを示す。

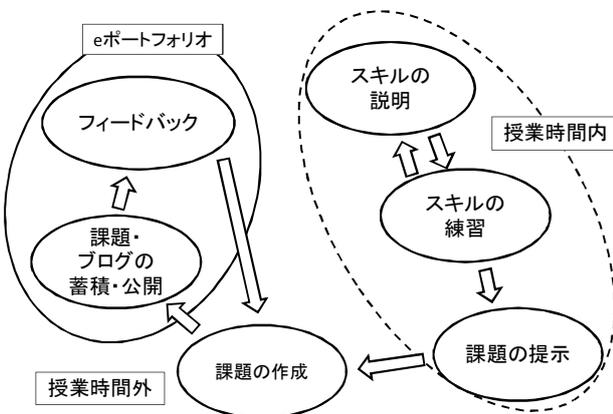


図3 DTP演習のサイクル

図3で、点線で囲った部分が、授業時間内で実施した項目であり、実線で囲った部分は、ePF上で実施した項目である。DTP演習では、課題をePFに提出してもらい、それに対してクラスの他の学生からフィードバックを受けるようにした。ただし、学生には気に行った作品2つに対してフィードバックをす

るように指示を行った。DTP演習の授業評価アンケートでは、(1)自分の作品へのフィードバック、(2)他の学生の作品を見ること、に対する評価を聞いたところ、図3のような結果になった。

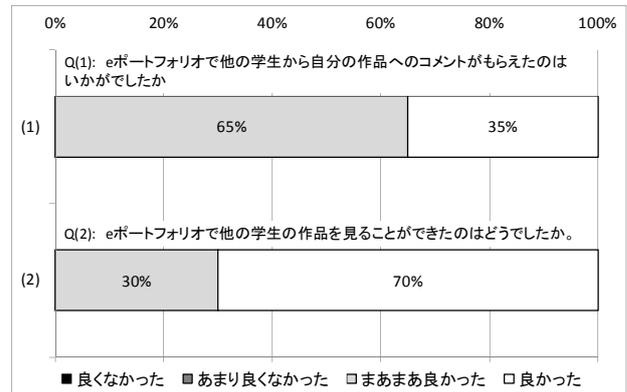


図3 DTP演習の授業評価アンケート結果

どちらの問いに対しても、「良かった」と「まあまあ良かった」の肯定的な回答しかなかった。特に他の学生の作品を見ることに対する評価が「良かった」のみで70%と高いことが分かる。自由記述に関しては、フィードバックをもらうことに関しては、「嬉しい」「励みになった」、他の作品の閲覧に関しては「楽しい」「おもしろい」という感情面での感想が多くを挙げた。

## 3. まとめ

eポートフォリオは、平成21年度から利用しているが、平成23年度に初めて、タイプが異なる授業で、ピアレビューを取り入れたところ、どちらでも評価が高かった。しかし、自由記述をみると、分析的な側面が強い授業では感想も分析的であり、芸術的な側面が含まれている授業では、感情の面が強く出た感想になっていることは興味深い。

導入ゼミでは、ピアレビューが、自分が何を学んだかをさらに深める契機になっているようであり、DTP演習では、自分が学ぶ動機づけを強める契機になっている。今後は、ピアレビューの効果を何らかの方法で測定していきたいと考えている。

## 参考文献

- (1) 山川修, 藤原正敏, 籠谷隆弘, 坪川武弘, 菊沢正裕, 北野皓嗣, 杉原一臣, 「福井県大学間連携取組 (フレックス) の概要と目的」, 教育システム情報学会研究報告, vol.24, no.1, pp.24-27 (2009).
- (2) 山川修, 籠谷隆弘, 徳野淳子, 齊藤徹, 大熊一正, 北野皓嗣, 平塚紘一郎, 「大学連携による学習コミュニティ形成支援システムの設計と構築」, 平成21年度情報教育研究集会講演論文集, pp.133-136 (2009).
- (3) 山川修, 籠谷隆弘, 徳野淳子, 「LMS,SNS,eポートフォリオを連携したeラーニング環境」, 情報処理学会研究報告(第6回CLE研究会), Vol.2011-CLE-6 No.5, pp.1-5, (2011).